



NPO 法人フードバンクはりま 辻本美波さん 講演会

この新聞は学校 HP にも掲載しています。

今年度の 4 月 23 日土曜日に NPO 法人 フードバンクはりまさんから辻本美波さんが賢明に來られ、講演会が行われました。

フードバンクとは①「食品銀行」を意味する社会福祉活動のこと②「まだ食べられるのに、さまざまな理由で処分されてしまう食品を、食べ物に困っている施設や、人に届ける活動のこと」をいいます。

日本で捨てられている食品は年間 612 万トンです。これは日本の人口(赤ちゃんやお年寄りを含め)一人一人のお茶碗一杯分のご飯の量に相当します。【図1】



ところで日本にも貧困状態にある人が多いことを知っていますか? 【図2】

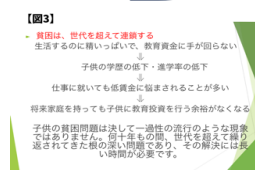
日本の人口 1 億 2 千万人のうち 2 千万人(日本の人口の 6 分の 1)が貧困ライン以下で生活しています。【図3】

そこで、フードバンクはりまさんはこの二つの問題を解決するために活動しています。



支援先にはコロナで仕事が減った家族や、家族からの虐待によって生活に困っている人、外国人の留学生などがあります。中には 10 人の子ども(障害を持っていない子もいる)がおり、一番上のお姉さんもヤングケアラーになってしまった家族もいます。このような支援先で不足するものは特にベビー用品やティッシュ・トイレットペーパーなどが多いそうです。【図4】

私たちが勘違いしてはいけないのはフードバンクはりまさんは始めから支援金や支援品を持っているわけではないことです。フードバンクはりまさんは私たち支援者がいて初めて成り立ちます。支援



【図4】2021年度活動実績

提供量	37,825kg
支援回数	1,911回
支援量	40,479kg
食品が2,654kg不足	

※2022年3月末



品がないと支援先の人になにも届けられません。よって私たちの他に企業から支援品をもらう・買う事もあります。その企業は例えばコープ、スーパー、JA、パチンコ屋などです。

このようにフードバンクはりまさんは支援活動を行って貧困問題や食品ロスの問題の削減に努めています。この活動を通して、未来の子どもたちが安心して暮らしていけるために、みなさんが自分自身の生活との繋がりをもち、自分たちができる簡単なことから始めてみませんか? 嫌いな食べ物を残さず食べたり、まだ食べられるものを捨てることを避けたり、フードバンクについて知り行動したりすることなど! 私たちが日頃から学校生活で助け合いをしているように、社会でも助け合う事が必要です。みなさんが考えるSDGの輪を広げていきましょう!

(記者 北原萌衣 神足佳音 峯明里)

フードバンクはりまさんでの体験記

4月24日(日)、姫路西芸会館のイベントで、フードバンクはりまさんのフードドライブ活動のお手伝いに行ってきました。そのイベントに來られた人は会員が中心だったので、フードドライブ目的で來られた人ではありませんでしたが、活動を知った数人の方が家から色々持ってきてくださいました。フードドライブのブースを見て募金をしてくださった方や、私たちの制服姿を見て声をかけてくださった賢明の卒業生のお母様もいらっしゃいました。代表の辻本さんがフードバンクの活動を始めた時は、全員が全員協力的な人ばかりではなく、理解してもらえないことも多々あったそうです。その中でも、ひとつひとつ課題をクリアしながら奔走されてきました。

ところで皆さん、食べ物にあふれているこの日本でも7人に1人の子供が食べることに困っているのを知っていますか? 1クラス30人だとすると、約4人が食べることに困っていることになります。この姫路市でも起こっていることです。家族とフードバンクのことについて話し合ったり、相談をして、機会があれば持っていくたりすることから私たちは始めたいと思いました。私たちは、今、この活動を始めたばかりです。私たちが自分達に出来ることを考えて、できることをやっていきたいと思いました。

(高田明奈 百原愛佳)

第1回校内フードドライブにご協力をありがとうございました。お米49kg、食品97kgと多数の日用品をNPO フードバンクはりまさんに寄付しました。

奈切先生に聞く 賢明のSDGsの取り組みについて

今年度初めの新聞は新しく入学してきた1年生のみなさんにも見てもらいたいと考え、1年生の学年団の奈切先生にインタビューさせていただきました。これから発行する新聞もたくさんの人によんでもらえる、そんなきっかけにもなればいいなと思っています。

● 賢明のSDGsの取り組みについてどう思いますか？

● 奈切先生 難しい話になるんですけどフードバンクとかされていますよね。その取り組みはとても素晴らしいと思います。我々の年代よりも前の、例えば戦後に日本はアメリカの経済を追い抜こうとして、先進国の仲間入りをしてとても頑張ってきた方々がいたから、今の私たちがあるんです。でもその反面、発展途上国の人たち、特にアフリカの人たちの貧困に繋がっていつてしまっているんです。

私たち日本人が資本主義社会という道をとった反面、世界の7割の人たちが苦しんでいるのはとても心が痛みます。でも遠くの話だけでは



はなく、日本にも貧しい人たちが出てきているんです。なぜなら、お金持ちと貧しい人の格差があつて世界は成り立っているからです。それに対して今世界が変わろうとしていると思います。それとても素晴らしいことだと思ひますし、この賢明でも Be Leaders の人たちが一生懸命活動する姿というのは、『灯台の光』になると思ひます。子供たちが頑張らないと大人つて動かないんですよ。大人つて子供に「あれこれしろ」と言う割に自分はやらな

いんです。例えば宴会の残り物を集めることができたなら、世界の人が苦しむことなく生きていけるらしいです。なので、「これは問題だ」と明確にしなければ、大人は動かないんです。だから君たち子供が動くことで、もつとたくさんひとが悩まず笑つて過ごせる社会が広がってほしいなと思ひます。

● 今年の目標が『住み続けられる町づくり』と『パートナーシップで目標を達成しよう』なのですが、今の世界の状況（特にウクライナとロシア）と関連すると思ひますか？

● 奈切先生 大きい意味で言うとなんか痛ましい出来事だと感じています。今のニュースや記事を見ていたらロシアの方が上の立場のように感じますが、もともとウクライナの方が上だったんですね。そのあとモスクワが人気出たので、モスクワが中心になったんですが。結局どうしてそうなったのかはプ



ーチン大統領のせいだと言われていますが、それは西側諸国の人たちが言っている意見であつて、新聞やメディアや報道で出ているのが本当にそうなのかは、疑われないといけないところだと思ひます。世界というのは『優しい』か『優しくない』かで言つたら、すごく難しいんです。人間つていうのは『得をするか』『得をしないか』で生きています。

ウクライナに関して「可哀想」と思ひ、物資を送るだけのところがあります。でもそもそも『NATO』に入りたいと言つていたのに戸惑つていて入れてくれないんですね。なぜならロシアが「核」を持っているからです。世界中は核だらけです。核は抑止力にもなるし脅しの道具にもなるんです。別の国もウクライナとパートナーシップを結んでないので物資とか武器とかを送るんです。でも兵隊は送らないんです。だからそういうところを見ると、ウクライナは見放されてるとも感

じています。多くの人たちの町が焼け野原の状態で、住む家も家族もなくなつてののに、根本的には誰も助けたくないんです。ウクライナ正教とかロシア正教とかがあつて、カトリックも兄弟なんですよ。だから本当は助けあわないといけないんです。だから『愛』つて何かと言われると、とても難しいですね。優しくするのが愛なのか、認め合うのが愛なのか、それは分からないです。でも愛じゃない行為はすぐ分かるんです。人を傷ついたり、脅したり…本当は支え合つて生きないといけないところ同士が、そうやって戦争をしているのはとても胸が痛みます。でも明日は我が身で、この戦争が終わつたら世界はどうなるのが気になります。

奈切先生は1つ1つ私たちに分かりやすいように答えてくださいました。色々なことが聞けてとても勉強になりました。ご協力ありがとうございました。

（記者 浮田秀葉、香山裕莉絵、升木真史）

柳瀬先生に聞く 今年度の Be Leaders に期待すること

.. 先生が今年度 Be Leaders の活動に期待されることは何ですか？

.. 柳瀬先生 Be Leaders の活動も年々いろんな種類の活動が増えてきて、活動人数も増えてきました。ですので、Be Leaders と言ってもやる事が沢山ある中で、何か一つと言うと難しいです。けれどもその中で、目標の一つとして掲げている、SDGs の目標で17番目の「パートナーシップで目標を達成しよう」のために活動することが一番かなと思います。

なぜかと言うと校内のメンバー同士のパートナーシップが基本になるけれど、Be Leaders から発信して、学校全体がいろんな社会の問題に目を向けたり、身近な問題に目を向けたりして、みんなが繋がって連帯意識を持ってもらえると嬉しいからです。やはり「何か行動を起こしたい！」と思っても、絶対に1人の力では限りがあります。でも、メンバー同士で話し合い、それを全校生徒に広げたら、もっともっと活動がより良いものになると期待しています。

さらに今年度は校内だけでなく学校外の方たち、例えば地方自治体の方や、NPO 法人フードバンクはりまさん、様々な企業の方達と繋がり、社会のために何かしていこうという繋がりを大切に、身近な所から広い所まで視野を広げて、パートナーシップで目標を達成していってほしいと思います。

..SDGs の目標達成のために、個人的に何かされていることはありますか？



.. 柳瀬先生 質問をもらった時にすごく悩みました。私何もしないんじゃないかなとドキドキしました。身近な毎日の生活から、これから自分がどんな生き方をしていくか、全部繋がっているなと思います。一つ一つを見ていくと、私が子供の時から賢明で働いている今までの人生の場面場面が思い出されました。私は子供の頃すごく田舎に住んでいて、自然の中で沢山の遊びました。その時は本当にそこら辺にある素材を使っておもちゃを作って遊ぶ野生児でした！ その時は本当に幸せでした。学生になつて東京に住むと周りに自然がなく、自分の気持ちも落ち着かなくて、周りに自然があることはすごく豊かなんだなというのを感じました。豊かな自然はお金には変えられないかけがえのないものであり、SDGs の目標15番目の「陸の豊かさを守ろう」という目標を、これからはますます意識していきたいと思っています。

10番目の目標「人や国の不平等をなくそう」について

昔、一年ほどアジアのフィリピンに行っていました。本当に国全体が貧しく、通りをみると大人も仕事がなく周りをぶらぶら、子供たちは学校に行けていなかったり、環境破壊が進んでいたという、日本ではあまり感じる事のなかった現状を間近に見て、衝撃を受けました。けれど現地の方達は今持っている物で満足したり、みんなで助け合ったりして生きていらっしやっていました。日本ではあまり経験できない体験でした。こういう問題には、私たちが「援助します！」ではなく、私たちがこの問題を知り、問題を解決しながら逆に私たちが学んでいく姿勢が大切だと思います。

私は皆さんにSDGsの問題を考えてもらう媒体になればいいなと思って、この活動をさせてもらっています。(媒体は何かを通して発信すること)自分が媒体になっていろんな人にSDGsに関して考えてもらいたいということを意識しています。(記者 藤原萌衣)



Be Leaders に参加しませんか

2022 年度も様々な班にわかれて活動しています。1 ベルマーク班 2 新聞班 3 海のゴミ調査隊 4 小学校出張授業 5 調べ学習 6 ユニクロ「服のチカラプロジェクト」 7 校内環境班 8 フードドライブ 興味があり、是非やってみようという人は担当の先生に申し出て下さい。活動テーマはSDGsに関する事を「知り」「考え」「行動する」です。現在も地球上には様々な諸問題が存在します。問題が大きすぎて個人では何もできないと思っていませんか。そんなことはありません。小さな意識の変化が行動を生み、その積み重ねが問題解決には大切です。日々の疑問を解決したい、何か行動したいという思い、世界の現状を知りたいという知識欲、Be Leaders で実現しましょう。

おすすめの SDGs 関連書籍



ちくまQボックス
SDGs時代の食べ方
井出留美
主役はあなた！
食卓から
世界を変えよう！

日本とは贅沢な国である。世界にはまともにご飯を食べられない人が大勢いるというのに、今この瞬間も食べ物が捨てられている。その量は600万トンで東京都民の年間食量と同じくらいだ。食べ物は足りているのに足りないのである。

この対策は政府が何とかするだろうと他人任せにしないだろうか。是非この本を読んでもほしい。賞味期限について、家庭ごみの減らし方について分かりやすく解説されている。そして私たちがいかに食糧を無駄にしているのか、数値とともに説明してありグサグサと心に刺さる。

またこの「ちくまQボックス」シリーズの本は、身近な疑問に答えてくれるだけでなく、読み終えたあと新たな疑問が生まれてくる。この本の最後に「次に読んでほしい本」と紹介されており、生まれた疑問を疑問のまま終わらせたりしない。SDGs時代にふさわしい食べ方を知るとともに、自分の世界も広がる「SDGs時代の食べ方」。1度手に取ってみてはいかがだろうか。

（菅野柚希）

賢明人語

近年の日本では、SNSでの表現の自由と規制について多くの人々に議論されている。これは表現の自由の妨害か人権侵害の放置かということについての議論である。▼まずSNS上での表現の自由と規制がもたらす影響について考えてみよう。匿名で投稿できることで公の場ではなかなか言えないことがSNS上では言える。#MeToo運動がひとつの例として挙げられるだろう。この運動はアメリカで始まり、大物女優から一般人まで広がったSNSを使った大きな運動になった。こうした運動を見ると、表現の自由は素晴らしいもののように思えるが、その反対に自由と言う言葉を盾にして誹謗中傷を書き込む人も後を絶たない。それによって精神を病んだり、死亡事件が出てしまっていることも事実である。だからといって何でもかんでも規制してしまえば、それは表現の自由を失ってしまうことになる。実際、規制が強くなりすぎて身に覚えのないアカウント凍結や投稿削除についての批判の声もある。本末転倒である。▼真の表現の自由とは、規制の意味とは一体何なのだろうか。誹謗中傷をして自分を満たすため？表現の自由を侵すため？いいやどちらも違うだろう。自由という言葉にはいつも責任がついてまわる。自由と聞けば聞こえはいいが、それは決して好きに書き込んでいいよという意味では無い。言葉は時に凶器となる。優しく人を助けられるものが、人を傷つけるナイフになるのだ。SNSに投稿する言葉一つ一つが凶器になりかねないということをどうか忘れないで欲しい。▼表現の自由と規制のバランスはとても難しいものだ。どちらの天秤も傾けることはできない。私としてはもう少し規制が緩和されてもいいと思うが、皆さんはどうだろうか。今後、SNSでの表現の自由と規制がどのような関係になっていくのかを注視していきたいものである。

（早田美空）

賢明人語のライター、募集します

今までの新聞でもご好評をいただきました賢明人語。2022年度第1号の新聞の賢明人語はいかがでしたでしょうか。今年度も昨年度に引き続き、全校生の中から賢明人語を書いてくれる人を募集します。この新聞は毎月発行予定です。その新聞の一面を飾る文章を書いてみませんか？テーマは社会問題に関するものでお願いします。コロナ禍で思うことやジェンダー平等のことでも、海外で起きていることについてでも何でもOKです。

出来事からあなたの考えを400～600字程度でまとめて下さい。学年は問いません。またBeLeadersのメンバーでなくても構いません。文章を書くのが得意な人、苦手な人でも大歓迎です。あなたが社会に対して日頃思っていること、疑問に感じていることを言葉にしてみませんか？少しでもやってみようと思いを思った人は平尾先生、福山先生まで申し出て下さい。たくさんのお応募をお待ちしています！

